

孔夫子教授一斑：論説

著者	内田，周平
雑誌名	龍南會雜誌
巻	1 7
ページ	1 - 5
発行年	1893-05-27
URL	http://hdl.handle.net/2298/4071

龍南會雜誌第拾七號

論說

孔夫子教授一斑

教授 内田 周平

孔子ヨリ已前、周ノ初メニ當リ既ニ儒ト云フ職アリテ卿大夫ノ致仕シタル者教授ヲ爲シテ居リシガソノ教フル所ハ大抵六藝ヲ主トシタル者ノ如ク或ハ當時政府ノ定メタル教條ニ依リテ人民全般ノ心得ヲ演ベシモノナレバソノ方法モ一定ニシテ簡單ナリシナラン孔子ノ時ニ迄ビテハ禮樂崩壞セシノミナラズ異端ノ學モ漸ク出デ來ラントスルノ兆アリテ(中庸ノ索隱行怪ノ語ヲ見テモ知ルベシ)原壤ノ如キハ已ニ老子流ノ行ヲ見ハスニ至リタレバ我が奉ズル所ノ教ヲ明言シテ其歸趣ヲ示スノ必要ヲ認ムルニ至ル是レ古來ノ道德論ガ孔子ヲ待チテ大ニ詳密トナリシ所以ナリ蓋シ唐虞以來、皋陶、伊尹、傅說、甘盤ノ如キ賢者アリテ皆道德政治ノ要義ニ通ジタリシガ各々ソノ學術ヲ政事ニ施スヲ得タレバ未ダ著述ト稱スル程ノ者アラザリキ想フニ學問ノ事即チ讀書モ窮理モ往古ヨリ有リタルニ相違ナケレバ當時聖賢相ヒ集マリテ政事ヲ爲シタレバ別段ノ著作モナカリシナラン周ノ春秋ノ時代ニ及ビテハ名アル人ニシテ學問セヌ者ハナカリシガ其中ニハ學問セシモ用井ラレザル者アリテ之ヲ政事ニ行フヲ得ズ是ニ由リテ獨リ自ラ下ニ居リテ教授ヲ事トシ隨ヒテ學理ヲ研キ學說ヲ立ツルニ至リシナリ學術モ事業ニ顯ハスヲ得レバ必ズシモ著述スルヲ須井ズト雖モ用井ラレザルハ學理ヲ研究シテ之ヲ後世ニ遺スニ至ルハ自然ノ勢ナ

リ且ツ時勢ノ變遷スルニ隨ヒテ事物モ益々繁雜トナレバ亦必ズ學理ニ據リテ之ヲ明メザルベカラズ孔子歷代聖賢ノ道ヲ傳ヘ之ヲ當世ニ行ハント欲セシカドモ卒ニ行ハレズ是ニ於テ其門人ト共ニ益々之ヲ講明シテ遂ニ之ヲ書ニ筆セリ是レ春秋ノ季ニ當リテ孔門ノ學ガ其標号ヲ掲ゲ出シタル所以ナリ爰ニ論語ニ據リテ其教授方法ノ一斑ヲ述ベ以テ人ニ示サント欲ス但ダ余ノ教授ト題セシモノハ獨リ學業ヲ授クルヲ指スノミナラズ兼テ行狀ヲ教ユルヲ謂フト知ルベシ

周禮ノ司徒ニ師ハ德行ヲ以テ民ヲ教ヘ儒ハ六藝ヲ以テ民ヲ教ユルコトヲ言フ孔子ノ道ハ師ト儒トヲ兼ネタレバ當時各國ノ學者來リテ弟子ト爲リ其教ヲ受ケシコト知ルベシ今ソノ教授ノ方ヲ議ラント欲セバ論語ノ書ヲ捨テ、他ニ求ムベカラズ孔門ノ教ハ讀書ヲ以テ先トナスコトハ論語ノ開卷學而時習ノ章ヲ見テ知ルベシ凡ソ倫常ノ紀、道德ノ要、禮樂文藝ノ事載セテ書冊ニ在ルモノハ皆當ニ之ヲ學習スベシ然レニ聖人ノ教ハ未ダ行事ニ見ハサズシテ但ダ言語ニ見ハス者アラズ故ニ讀書ト云フト雖ヒ必ズコレヲ已レガ身ニ躬認シテ實踐シ徒ラニ記誦詞章ノ資トナスモノニ非ルナリ蓋シ學而ノ一章ハ孔子ガ學ヲ以テ人ヲ誘フノ語ニシテ而カモ孔子一世ノ事實ハ此中ニ包括セラレタリ故ニ弟子論語ヲ編スルノ時コレヲ以テ二十編ノ首ニ冠セシナリ(二十編ノ終リニ不_レ知_レ命、無_レ以_レ爲_レ君子ト曰フハ此レト終始相ヒ應ズルナリ)サレバ仁齋伊藤氏ガユノ章ヲ稱シテ一部小論語ト曰ヒタルモ至當ノ言ト謂フベシ夫子縱ヒ萬世ノ學脉ヲ以テ自ラ任ゼザルモ萬世ノ學脉ハ夫子ニ歸セザルヲ得ザル者アリ即チコノ一章ノ旨ヲ領會シテ知ルベシ子曰、學而時習_レ之、不_レ亦悅_レ乎、有_レ朋自_レ遠方來、不_レ亦樂_レ乎、人_レ不_レ知而不_レ愠、不_レ亦君子_レ乎、朱子之ヲ解シテ曰ク此所謂學トハ彼レニ効フ所アリテ而シテ其成ルチ我レニ求ムルノ謂ナリ已レノ未ダ知ラザルヲ以テシテ而シテ夫ノ知者ニ效ヒ以テ其知ランコトヲ求メ

已レノ未ダ能クセザルヲ以テシテ而シテ夫ノ能者ニ效ヒ以テ其能クセンヲ求ルハ皆學ノ事ナリ學
ビテ而シテ時習ス何ヲ以テ悅ブヤ曰ク人既ニ學ビテ而シテ知リ且ツ能クセリ而ルニ其ノ知ル所ノ理
其ノ能クスル所ノ事ニ於テ又時ヲ以テ反復シテ而シテ之ヲ溫繹シ鳥ノ飛ブヲ習フガ如ク然スレバ則
チソノ學ヲ所ノ者熟シテ而シテ中心悅懌スルナリ蓋シ人ニシテ而シテ學バザレバ則チ以テソノ當ニ
知ルベキ所ノ理ヲ知ルナク以テソノ當ニ能クズベキノ事ヲ能クスルナク固ニ冥行スルガ若キノミ然
レモ學ビテ而シテ習ハザレバ則チ表裏扞格シテ而シテ以テソノ之ヲ學ブノ道ヲ致スヲナク習ヒテ而
シテ時ニセザレバ則チ工夫間斷シテ而シテ以テソノ之ヲ習フノ功ヲ成スヲナシ是レ其胸中勉メテ以
テ自ラ進マント欲スト雖モ亦且ニ枯燥生澁ニシテ而シテ嗜ムベキノ味ナク危殆杭隄ニシテ而シテ即
クベキノ安ナカラントス故ニ既ニ學ビタリ又必ズ之ヲ時習スレバ則チ其心ハ理ト相涵シテ而シテ知
ル所ノ者益々精ク身ハ事ト相ヒ安シテ而シテ能クスル所ノ者益々固ク朝夕俯仰ノ中ニ從容シ凡ソ
學ビテ而シテ知リ且ツ能クスル所ノ者必ズ皆以テ心ニ自得シテ而シテ以テ諸人ニ語ル能ハザル者
アリ是レ其中心油然トシテ悅懌スルノ味芻豢ノ口ニ甘キト雖モ亦以テ其美ニ喩ラルニ足ラズ此レ學
ノ始メナリ理義ハ人心ノ同ジク然ル所、我レノ得テ私スルアルニ非ルナリ向キヤ吾レ獨リ之ヲ得以
テ悅ビテ爲スニ足レリト雖モ然レモ之ヲ以テ人ニ告ゲテ而シテ人之ヲ信ズルヲサク之ヲ以テ人ヲ率
ヒテ而シテ人之ニ從フヲナケレバ則チ是レ獨リ此理ヲ擅ニシテ而シテ舉世俛々其心ノ同ジキ所ヲ得
ザルナリ是レ猶ホ十人同ヲク食シ一人既ニ飽キテ而シテ九人ハ咽ニ下ラザルガゴトシ則チ吾レノ悅
ヲ所深シト雖モ亦曷ヲ爲シテ而シテ外ニ達セシヤ今吾レノ學已レニ得ル所以ノ者既ニ以テ人ニ及ボ
スニ足リ人ノ信シテ而シテ從フ者又此ノ如ク其レ衆ケレバ則チ將ニ皆以テ其心ノ同ジク然ル所ノ者

ヲ得テ而シテ吾レノ得ル所獨リ一已ノ私ト爲ラザラントス夫レ我レノ善以テ彼レニ及ブアリ彼レノ
心以テ我レニ得ルアレバ吾レノ知ル所ノ者彼レモ從ヒテ而シテ之ヲ知ルナリ吾レノ能クスル所ノ者
彼レモ亦從ヒテ而シテ之ヲ能クスルナリ則チ歡欣交通シ宣揚發暢シ宮商相ヒ宣ベ律呂諧和スルト雖
モ亦以テ其樂ニ方ブルニ足ラズ是レ學ノ中ナリ常人ノ情、人知ラズシテ而シテ慍ラザル能ハザル者
ハ外ニ待ツコトアレバナリ聖門ノ學ノ若キハ則チ以テ已レノ爲メニスルノミ本ト是レヲ爲シテ以テ人
ノ知ラントチ求ムルニ非ルナリ人之ヲ知リ人之ヲ知ラザルモ亦何ゾ我レニ加損センヤ然レモ人或
ハ此レヲ聞キタリト雖モ而レモ之ヲ信ズル篤カラザルアリ之ヲ養フ厚カラザルアリ之ヲ守ル固カラ
ザルアレバ則チ之ニ居リテ安ンゼズ而シテ事ニ臨ミテ未ダ必ズシモ眞ニ不動ナラザルナリ今ヤ人見
知セズシテ而シテ之ニ處スルコト泰然且ツ略ボ纖芥怒リヲ含ミテ不平スルノ意ナシ成德ノ君子ニ非ズ
ンバ其レ孰レカ之ヲ能クセン是ヨリ日ニ進ミテ而シテ已マザレバ則チ下學上達聖人ニ至ルト雖モ可
ナリ此レ學ノ終リナリト余案ズルニ夫子コノ章ニ於テ纔ニ學ノ字ヲ說キシニ我レト朋ト人トヲ融通
シテ一牀トナシ而シテ其一牀ハ悅樂君子是レナリ夫子ノ人品モ亦此レニ因リテ以テ想見スベキノミ其
語氣ニ至リテハ三不亦ハ是レ決詞ナラズシテ約略ニ指點スル語ナリ三乎字ハ一直ニ說定セズ帶疑
ノ詞ニ似セテ人ノ自ラ想念シ去ルヲ待ツナリ聖人ノ人ヲ誘フ其氣象何ゾ其レ溫厚和藹此ニ至リシ
乎、朱子又曰ク學而時習レ之此レハ是レ論語ノ第一句、句中ノ五字、輕重虛實ノ同シカラザルアリト雖
モ然レモ字々皆意味アリ一字トシテ著落ナキハナシ學ノ言タル效ナリ已レニ未ダ知ラズ未ダ能クセ
ザル所アリテ而シテ夫ノ知者能者ニ效ヒ以テ其知能センコトヲ求ムルノ謂ナリ而字ハ上チ承ケ下チ起
スノ辭ナリ時ハ時トシテ而シテ然ラザルナキナリ習ハ重複溫習スルナリ之ハソノ知ル所ノ理能クス

ル所ノ事ヲ指シテ而シテ言フナリ言フハ人既ニ學ビタリ而シテ又ソノ知ル所ノ理能クスル所ノ事ヲ温習スルナリ聖言約ナリト雖_レ而_レ其指意曲折深密ニシテ窮盡ナキヲ此ノ如シト余ハ謂フ悦樂君子ハ是_レ時習中ノ眞光景ニシテ而シテ夫子生平學行ノ始末ハ是一章コレヲ盡スニ足ル故ニ記者コレヲ群言ノ首ニ記シテ而シテソノ誘_レ人ノ心ヲ想ハシム且ツ夫_レ學ノ妙味ハ尤モ形容シ難シソノ善ク之ヲ形容セシ者孰_レカ此右ニ出ヅルアラシヤ後世孔子ノ學風ヲ窺ハント欲スル者ハ宜シク先ヅコノ一章三節ヲ復誦翫味スベクシテ可ナリ

竹取物語

(承前)

白河次郎

竹取物語と當時全般ノ思想及風俗

文學は社會裏面の歴史なり、何が故に然るか、作者は常に當時の事實を綜合するの傾向あまばなり。試に竹取物語を取りて、通讀一過せよ、當時全般の思想及風俗と、簇として紙上に集まり、炳として眼前に現れ來るを覺えざるが、更に精讀せよ、以て隱微の點を觀破り見よ、一字一句の間にも、猶ほ其影響を被りたるの跡を見ざるか。吾嘗て文學史を讀み、文學に影響を及ぼし、以て各種の國文を構成するエッセントなるものを見る。一には國粹なり、美なる日本文學、精なる西洋文學、雄なる支那文學、皆此理に基きて出でしとかや。一には身外れ現象、地理學、土地文學上に於ける、國々の位置、形勢等を指せるなり、九州の文學の壯大にして京師の文學の優美なるが如きものなり。三には時運なり、古代に活氣ある文學の出でたる、中世に浮華の文學を孕みたる、亦又其一例なるべき。此三者は、固より直接に文學を感化すべきものありとするも、一び國民の思想及風俗の上に表れ、引いて其國及其時代の文學